

（２）高２「異文化研究の実践」

（１）高１ＳＧＨ地域課題研究との繋がりとは高２課題研究のねらい

１年生の時には、身近な地域をフィールドに６領域に分かれて班別課題研究を行った。そのねらいは３つある。１つは課題研究の進め方を体験的に学ばせ、身につけさせることである。２つ目はグローバル・リーダーとして欠かせない資質と考える「地域とともに生きるというアイデンティティ」「地域への所属意識」を育てるためである。３つ目は、遠い海外ではなく身近な地域を対象とするため、すべての高校１年生にフィールドワークの機会をつくるのが容易であることである。その学びを通して、生徒は自らの地域が解決が容易でない様々な社会課題に直面していること、そしてそれらの困難な社会課題に解決に取り組んでいる事例があること、またそれらは解決に向けて多様なアプローチで実践されていることを体験的に学ぶことができた。

そして２年時は、１年生だった昨年の経験を基礎に、１年次で研究したテーマについて、それが海外の国・地域ではどのように現れているか、どのような発想で如何なる取り組みがなされているかについて国際比較し、国内外への解決策の提言に結び付けていく研究を行った。

（２）課題研究の体制について

①高２年生の班編成

生徒数・・・１５２名 班の数・・・全３０班

２年生１５２名が、３０の班に分かれてチーム研究に取り組んだ。昨年度の２学年が行った研究のテーマから自分たちが研究したい内容を選び、それで班分けを行った。つまり先輩方が行ってきたものを引き継いで研究に取り組んだということになる。４月１８日に班編成を終えてチームメンバーとの顔合わせを行い、新年度の研究体制がスタートした。

ＳＧＨ事業も４年目を迎えたが、昨年度の報告書にもまとめられている通り、生徒はチーム研究を進めるにあたり、研究以前にチーム内の生徒同士の人間関係で悩むことが少なくないということが分かった。しかし本年度は元々自分達が研究したい内容を選んで研究を行うということ、また、クラス内でメンバーを決めるという方針に変えたため、班編成は比較的円滑に行うことができた。またクラス内編成ということで、担任が指導をしやすくなり、各班について班の人間関係等の悩みに寄り添うことがより可能になった。

②教員による生徒への課題研究指導・かかわり

２学年団の教員から、全３０班の各班に二人ずつ（メインとサブ）が指導担当についた。教員１人あたりで２つから４つ程度の班をメインで担当した。サブ担当も同程度の班数を受け持ったので、２学年団の教員１人あたりでは４つから８つ程度の班の指導担当につくことになった。スポーツに関わるテーマなら体育科教員、エシカルファッションなら家庭科教員が担当につく等、教員の専門性が活かせる場合は考慮するが、高校教員の役割は、①各班の毎時間の報告を受けて、研究の進捗状況を把握すること、②その際に、常識的な範囲で、仮説の妥当性や調査方法の適切性について評価、助言すること、③個人研究方式ではなく、年間を通して関わるチーム研究であるがゆえに生じる班内の人間関係について、悩みの相談に寄り添うこと等である。高校教員は特段の専門性を要しない形で高校生の課題研究を支える体制であったため、２学年団の全教員が２年生の研究への関わりや指導・助言を実践することが出来た。

③高2課題研究の研究方法の指導

1単位の学校設定科目「グローバル情報」の時間を使い、特に1学期に、準教科書を用いて、(ア)リサーチ・クエスチョンの絞り方、(イ)仮説の立て方、(ウ)仮説の検証法、(エ)研究対象に応じた社会調査方法(インタビューやアンケート調査法、参与観察法)の選び方等について学んだ。また1学期の期末試験においては、教科書全範囲からの出題という形で改めて研究の進め方の復習を行うことができた。指導体制としては、HR担任、「情報」教員の他、宇都宮大学教員1名がこの科目の非常勤講師として加配されて3人の教員によるティーム・ティーチング形式で行われた。その中で、宇都宮大学教員から大学の研究者として実際に研究を行っている立場から毎週「グローバル情報」の時間において計画的に指導いただいた。

④フィールドワーク先、研究連携先

ア 高2課題研究フィールドワークのねらい

高校2年生では、フィールドワークも適宜取り入れながら理解を深めた、自分たちの地域(栃木県、佐野市等)が直面している社会課題について、全員が参加する修学旅行の行き先である台湾及びさらに別の海外の国(アナザーカントリー)においてどのような現れ方をしているか、どのような解決策が模索されているかについて調べて国際比較し、解決策の提言へ結びつける課題研究を行った。

イ 高2課題研究フィールドワークについて

(ア)2年生は国際比較を行う研究であるため、研究方法はインターネットや文献を使った調査が中心になる。フィールドワークを実施しなかった班は38班のうち9つの班だけであった。

(イ)主なフィールドワーク先一覧

班番号	テーマ	フィールドワーク先
2101	「地産地消の促進」	認定ファーマーズマーケット(アメリカ・カルフォルニア)・台湾・高雄グリーンレストラン
2102	「米粉で米農業を活性化!」	佐野市給食センター
2103	「佐野市の過疎化を食い止める」	佐野市役所
2104	「夜景で佐野市を活性化」	葛生にあるライトアップされた工場
2105	「「遊び」から得る学び!」	佐野市内の幼稚園
2107	「高齢者と子供の「わ」を作ろう!」	特定非営利活動法人ウィズ保育ひろばびっこハウスすくすく
2203	「社会実験で佐野を活性化」	ぼるぼーとマルシェ
2204	「石灰アートで葛生を活性化」	佐野市役所・葛生行政センター
2205	「英語嫌いを、ぶっ壊す。」	佐野市立佐野小学校
2302	「減塩料理と高血圧」	佐野厚生総合病院
2303	「追い込みすぎたB級グルメ」	佐野市内でのインタビュー調査
2304	「高血圧と食生活改善」	佐野市健康医療部健康増進課・佐野市役所
2306	「廃施設を再利用して佐野の町を活性化」	葛生南小学校
2307	「e-sports in 2024」	e-Sports SQUARE
2305②	「太陽光発電の設置基準の差異」	佐野市内

ウ 班ごとの比較対象国・地域

今年度の比較対象国・地域の主なものは、次のページの表の通りである。2年生は全員が台湾グローバル研修(いわゆる修学旅行に相当)に参加するために台湾に関わる情報を調べるとともにanother countryを設定して研究を進めている。台湾に関しては、SGHリレー講座で本校SGH統括アドバイザーの松金公正先生による講義を受けている。

班番号	テーマ	アナザーカントリー
2101	「地産地消の促進」	アメリカ
2103	「佐野市の過疎化を食い止める」	フランス
2104	「夜景で佐野市を活性化」	ポーランド
2105	「「遊び」から得る学び！」	中国
2106	「海洋プラスチックごみ問題」	イギリス
2107	「高齢者と子供の「わ」を作ろう！」	デンマーク
2201	「災害時の死傷者を減らすために」	ベトナム
2202	「歴史的景観を守る」	イギリス
2203	「社会実験で佐野を活性化」	フランス
2206	「クリケット×多文化共生～佐野市から始まるクリケット革命～」	サモア・スリランカ
2207	「安全な水道水を求めて」	イギリス・フランス
2301	「ハザードマップの活用について」	スイス・オーストラリア
2302	「減塩料理と高血圧」	中国・韓国・ロシア
2304	「高血圧と食生活改善」	スペイン
2305①	「小水力発電を普及するには」	タイ
2305②	「太陽光発電の設置基準の差異」	ドイツ
2401	「音楽による男女のストレス軽減」	韓国
2405	「食品ロス改革！！！！！！」	アメリカ・ドイツ
2408	「エステートタミルを救うフェアトレード」	スリランカ・イギリス

(6) 高2 課題研究 実施記録 (総合的な学習の時間)

S G H課題研究は、毎週木曜日 7 限目の総合的な学習の時間を使って進めた。本校の授業週数は年間 39 週であるが、年 3 回ある発表会が 2 時間枠で実施されているため 2 回として数えると総学及びグローバル情報の時間を使って年間 55 回実施することができたことになる。(一覧については「第 2 章－3－(5)」を参照)

高2 課題研究 各班研究テーマ一覧

領域Ⅰ…公害や災害からの復興 領域Ⅱ…食料・エネルギー・水 領域Ⅲ…環境と経済・法律
領域Ⅳ…まちづくり・コミュニティ 領域Ⅴ…自然・生命 領域Ⅵ…教育・人権・文化

班番号	テーマ
2101	「地産地消の促進」
2102	「米粉で米産業を活性化！」
2103	「佐野市の過疎化を食い止める」
2104	「夜景で佐野市を活性化」
2105	「「遊び」から得る学び！」
2106	「海洋プラスチックごみ問題」
2107	「高齢者と子供の「わ」を作ろう！」
2201	「災害時の死傷者を減らすために」
2202	「歴史的景観を守る」
2203	「社会実験で佐野を活性化」
2204	「石灰アートで暮生を活性化」
2205	「英語嫌いを、ぶっ壊す。」
2206	「クリケット×多文化共生～佐野市から始まるクリケット革命～」
2207	「安全な水道水を求めて」
2301	「ハザードマップの活用について」
2302	「減塩料理と高血圧」
2303	「追い込みすぎたB級グルメ」
2304	「高血圧と食生活改善」
2305①	「小水力発電を普及するには」
2305②	「太陽光発電の設置基準の差異」
2306	「廃施設を再利用して佐野の町を活性化」
2307	「e-sports in 2024」
2401	「音楽による男女のストレス軽減」
2402	「10代の食生活の影響」
2403	「外来魚 キーロ」
2404	「高校生によるフードバンクの促進は可能か」
2405	「食品ロス改革！！！！！！」
2406	「余剰米を使って環境に有害なプラスチックを削減！」
2407	「タピオカで余剰米問題解決」
2408	「エステートタミルを救うフェアトレード」

令和元(2019)年12月13日、本校第一体育館を会場に、高1・高2全班のポスターセッションが開催された。2年生も全30班が参加した。本稿では紙数の都合上、8つの班を例示する。

第2回調査研究

環境・教育

高齢者と子供の「わ」を作ろう！

～橋と船～

1期7組 小暮美月 清水愛佳 田村真南 飯久愛実 兵庫かほる

研究動機

先学研究より人生における力が必要であると知ったが、
共働き家庭が増えている現代の子供は
それらが養っていないのではないかと思ったから

方法

①現状分析 ②フィールドワーク

日本の現状

・共働き世帯数が増えている(52%→61%)

・高齢化が進んでいる

2020年

2060年

リサーチクエストン

現代の子供が人と触れ合う機会を増やすには？

仮説

高齢者と子供のふれあいの場を作れば解決できる！

アザナーカントリー

アザーマウ

・日本と同じ高齢者の割合が高い

・男女ともに読字率が高い

(女性79%,男性61%)

台湾

・日本と同じ高齢者の割合が高い

・女性の就労率が日本より高い

台湾 50.6% 日本 49.2%

教育・福祉に国を挙げて力を入れている。
両親が働いていても子供一人に十分な収入確保。

フィールドワーク

<事前>

特定公益財団法人
つくば育みかな
ちびっくハウスすぐぐく様

<目的>

日本でふれあいの場を作る上で子供にどん
な影響があるのか具体的に知る

<観察者>

子供

さまざまな人といっしょ
遊びは楽しんでいる
一人ではない安心感
他人から見た自分を知る

高齢者

本家の孫のように思う
自分の役割確認
手帳が「いる」と
子供の笑い声!

アザナゼント

生活力!

家と動物

高齢者と若者のふれあいの場を作ると子供は人と触れ合う機会が増え、かつアタッチメントを得ること
で、人間関係を築く力を養っていくことができる。
また、高齢者は往々にして孤独という時間を子供とすごすことで生きがいにつながる。

今後の展望

PWで学んだことを考慮し、実現可能なふれあいの場とは例々考える！

追記

先行研究出典 橋
平朝及大学の先生方

ちびっくハウスのすぐぐく様
河野美生 大島美希

参考文献

- ・人口統計学会 | 国社会政策研究所 | 人口問題研究所 |
<http://www.sosn.ac.jp/site/about/index.html>
- ・保育所全園誌(文部科学省)平成29年4月1日 | 厚生労働省 |
<http://www.mhlw.go.jp/content/125/000000000000.pdf>
- ・扶養手当基本調査結果からわかること | 税務情報総研社 |
<https://www.dats-japan.com/taxinfo/2021/corona/07index.html>

- ・Taiwan Age structure - Demographics | PopulationPyramid.net |
<http://www.internim.com/geography/population-pyramids/taiwan.aspx?chart=335&at=1>
- ・ちびっくハウスすぐぐく |
<http://www.chibikkhouse.co.jp/chibikk/>

[illegible]

高2SGH 課題研究 ポスターセッション 作品成果物

